



平成30年11月13日

各位

会社名 株式会社東理ホールディングス
 (コード番号 5856 東証第2部)
 代表者名 代表取締役社長 福村 康廣
 問合せ先 常務取締役 田中 斉
 (TEL. 03-6458-6913)

特別損失の計上、平成31年3月期第2四半期業績予想と実績との差異
 及び剰余金の配当（中間配当）に関するお知らせ

当社は、平成31年3月期第2四半期において、特別損失の計上、平成30年5月15日に開示いたしました、平成31年3月期の第2四半期連結累計期間の業績予想と本日公表いたしました実績値の差異及び剰余金の配当（中間配当）につきまして、下記のとおりお知らせいたします。

記

I. 特別損失の計上について

(1) 固定資産減損損失の計上

酒類製造事業が保有する固定資産につきまして、経営環境の悪化による収益の低下に伴い、今後の見通し及び投資額と投資期間全体を通じた回収可能額について比較検討した結果、224百万円を減損損失として特別損失に計上いたしました。

(2) のれんの減損損失の計上

酒類製造事業の経営環境の悪化による収益の低下に伴い、今後ののれんの回収可能額を検討した結果、子会社である老松酒造株式会社に係るのれんの減損処理を行い、321百万円を減損損失として特別損失に計上いたしました。

II. 業績予想との差異について

(1) 第2四半期連結業績予想数値と実績値との差異（金額の単位：百万円）

平成31年3月期第2四半期累計期間業績予想数値との差異（平成30年4月1日～平成31年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	7,572	100	109	83	0円 96 銭
今回実績 (B)	7,501	5	13	△543	△6円 24 銭
増減額 (B-A)	△70	△94	△96	△626	—
増減率 (%)	△0.9	△94.6	△87.7	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成30年3月期第2四半期)	7,640	8	0	△9	△0円 11 銭

(参考)

(2) 第2四半期個別業績予想数値と実績値との差異 (金額の単位: 百万円)

平成31年3月期第2四半期累計期間業績予想数値との差異 (平成30年4月1日～平成31年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期 純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	369	155	165	149	1円72銭
今回実績 (B)	369	164	171	157	1円81銭
増減額 (B-A)	△0	9	6	7	—
増減率 (%)	△0.1	6.1	3.7	4.8	—
(ご参考) 前期実績 (平成30年3月期第2四半期)	332	130	132	119	1円37銭

(3) 業績予想と実績値との差異の理由

①連結業績について

売上高、営業利益ともに前回の業績予想を下回り、その影響で経常利益も業績予想を下回りました。

その主な理由といたしまして、食品流通事業におきましては、昨年度新規オープンした店舗の継続的な営業強化及び既存店においては継続的に品揃えの充実と見直しを行い、来客層の拡大にも注力した結果、売上高は37百万円予想を上回る結果となりましたが、店舗改装に伴う減価償却費の影響などにより、営業利益は予想通りとなりました。

酒類製造事業におきましては、天候不順と夏場の猛暑により焼酎の需要が大きく減退したことなどにより、売上高が74百万円予想を下回り、また、高付加価値商品の構成率の低下などにより売上総利益が悪化し、営業利益は41百万円予想を下回る結果となりました。

教育関連事業におきましては、学校、学習塾向けテストの受講生が減少したことなどにより、売上高が63百万円、営業利益は23百万円それぞれ予想を下回る結果となりました。

リフォーム関連事業におきましては、一部大型工事の完成に遅れが生じたものの、売上高は30百万円予想を上回りましたが、工事の原価コストが増加したため、営業利益は予想通りとなりました。

その他の事業におきましては、その他教育関連事業等の販管費の増加などの理由により、営業利益が30百万円予想を下回る結果となりました。

四半期純利益に関しましては、売上高、営業利益、経常利益の影響を受けたこと及び酒類製造事業に係る減損損失を行ったことなどによる特別損失547百万円の計上の影響が大きく、626百万円業績予想を下回りました。

②個別業績について

売上高、営業利益、経常利益及び四半期純利益ともに業績予想の範囲内です。

Ⅲ. 剰余金の配当について

1. 配当の内容

	決定額	直近の配当予想 (平成30年5月15日公表)	前期実績 (平成30年3月期)
基準日	平成30年9月30日	平成30年9月30日	平成29年9月30日
1株当たりの配当金	1円00銭	1円00銭	—
配当金総額	86百万円	—	—
効力発生日	平成30年12月5日	—	—
配当原資	資本剰余金	—	—

2. 理由

当社は、株主の皆様への利益還元を重要課題と認識し、利益配分につきましては、安定した配当を行い、また、企業体質強化のための内部留保を確保することを基本方針としております。

上記の方針に基づき平成31年3月期第2四半期の業績及び財政状況等を総合的に勘案しました結果、1株当たり1円とさせていただきます。

(ご参考) 年間配当の内訳

基準日	1株当たりの配当金		
	第2四半期	期末	年間
当期実績	1円00銭	1円00銭	2円00銭
前期実績 (平成30年3月期)	—	2円00銭	2円00銭

以上